

目的

- ◆ 急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する。

事業概要

- ◆ 国際化を進める国内の大学のほか、企業、国際機関等と連携して、グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール」に指定し、質の高いカリキュラムを開発・実践する。
- ◆ 委託事業：委託先（都道府県市教育委員会、国立大学法人、学校法人）
- ◆ 対象学校：国公私立高等学校及び中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中学校・高等学校）、指定期間5年間
- ◆ 指定校数：継続11校（平成28年度指定11校：国1校・公8校・私2校）事業終了指定校112校
- ◆ 評価検証：事後評価56校（平成27年度指定）実施、事業検証実施
- ◆ 成果普及：全国高校生フォーラムの開催等

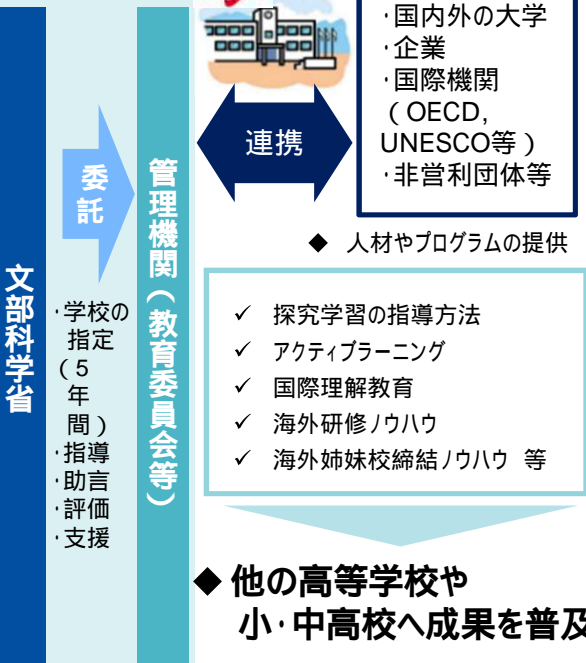
取組

- ✓ 英語等によるディスカッション、プレゼンテーション、論文作成、探究型学習、成果発表会等の実施
- ✓ 国内外の大学、海外の高校、企業や国際機関等と連携した国内外研修やフィールドワーク
- ✓ 英語等で指導する帰国・外国人教員等の派遣や、外国人留学生による英語等によるサポート

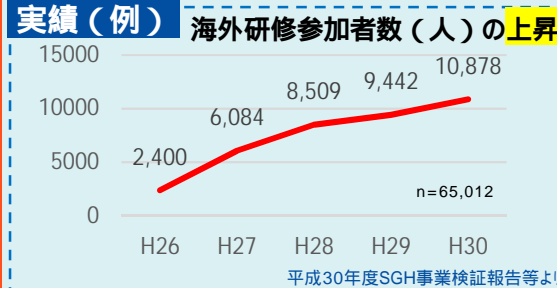


2018年度SGH全国高校生フォーラム
(2018年12月15日)@東京国際フォーラム

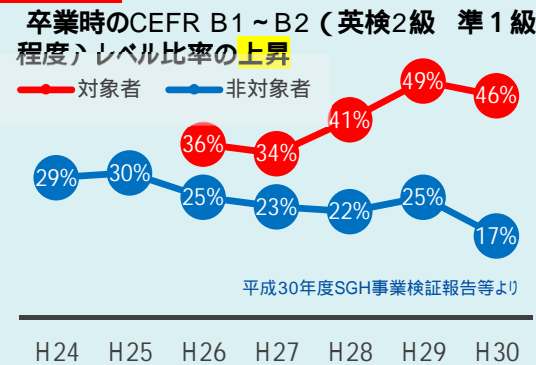
実施体制



平成30年度事業検証 実績と成果の例



成果



成果

調査対象：平成26年度SGH指定校56校の研究開発後の卒業生協力者835名

- 卒業生（SGH対象生徒）は、海外研修から学び、英語活用、視野拡大、大学生活で役立つ等という回答が多い。
 - SGH対象生徒は非対象生徒に比べて、
 - ✓ 大学進学の見込みとして「提供するカリキュラムが魅力的である」ことを重視。
 - ✓ 「プレゼンテーション」「レポートのまとめ方」「調査データ収集・分析」等一般的な知識やスキル修得への評価が高い。
 - ✓ 「自分と異なる立場の価値観の尊重」「相手との協力関係の構築」コンピテンシー獲得の得点が高い。
 - ✓ 「外国の様々な異文化に触れることは楽しい」「様々な外国へ行ってみよう」というグローバルマインドセットの得点が高い。
 - ✓ 「海外研修が学びにつながった」「英語を使う機会が多くよかった」「視野が広がった」「SGHの学びが大学で役立っている」等の肯定的な意見が多い。
- 平成30年度SGH事業検証 卒業生アンケート調査結果より

成果

卒業生の保護者、国内連携機関、海外連携校等のSGHへの満足度等が高い。

- ✓ 卒業生の保護者（613名）のうち、SGHの満足度76%の回答
 - ✓ 国内連携機関（84機関）からSGHのグローバル人材育成有用性89%の回答
 - ✓ 海外連携校（78機関）からSGH指定校との国際協働プログラムへの満足度96%、SGH指定校との国際協働が日本の高校生へのグローバル教育に役立っている97%等の回答
- 平成30年度SGH事業検証 各アンケート調査結果より

グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材（国際機関職員、社起業家、グローバル企業の経営者、政治家、研究者等）の輩出

SGH事業開始5年を通して、グローバル人材育成プログラムの内容と運営の経験知、国内外のネットワーク等、有形無形のリソースが形成されている一方で通年の国際協働授業実施や教職員の国際化等の課題が指摘された。



WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業(WWL-Plus)

事業概要

～ これまでの取組をさらに発展させ、ポストコロナ時代の新しい生活様式に対応して世界中とオンラインでつながり、高度な学びを実現 ～
ポストコロナ時代の世界とSociety5.0をリードし、SDGsの達成を牽引するイノベティブなグローバル人材育成のリーディング・プロジェクトとして、国内外の大学等との連携により文理横断的な知を結集し、社会課題の解決に向けた探究的な学びを通じた高校教育改革や大学の学びの先取り履修等を通じた高大接続改革を推進する。

- ◆ 高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等とが協働し、高校生が主体となり、**海外をフィールドにグローバルな社会課題の解決に向けた探究的な学びを実現**するカリキュラムを開発。
- ◆ ポストコロナ時代の新しい日常により、これまで訪問できなかった国の高校生や大学生等との**オンライン海外フィールドワーク**など、**世界規模で生じた豊かなオンライン環境を駆使**したカリキュラム開発。
- ◆ **大学等と連携した大学教育の先取り履修** (カリキュラム開発) により、高度かつ多様な科目等の学習プログラム / コースを開発。

新規分は以下の2タイプから選択し、カリキュラム開発のテーマを設定

タイプA (新規6拠点) : グローバルな社会課題の解決や国際会議の開催を通じて世界的な活躍を目指す人材育成に向けたカリキュラム開発

タイプB (新規10拠点) : Society5.0をリードし、ポストコロナ時代の世界的な課題解決を目指す人材育成に向け、新時代に対応してオンラインを駆使し、国内外の大学等と連携したAIやビッグデータなど、文理横断的な高度な学びを実現するカリキュラム開発

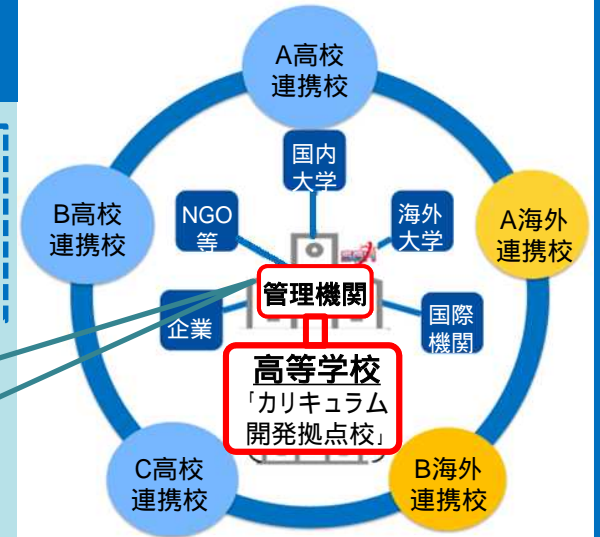
AL (アドバンス・ラーニング) ネットワーク イメージ図

ALネットワーク

海外フィールドワークや国際会議の開催等により、プロジェクトが効果的に機能するよう国内外の連携機関とのネットワークを形成

管理機関

高等学校と連携機関をつなぎ、カリキュラムを研究開発する人材 (カリキュラム・アドバイザー) 等の配置



WWLコンソーシアム

高校や国の枠を超えて、高校生に高度な学びを提供するAL (アドバンス・ラーニング) ネットワークを形成した拠点校を全国に50校程度配置し、WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築へとつなげる。

対象校種

国公立の高等学校及び中高一貫教育校

委託先

管理機関 (都道府県・市町村教育委員会、国公立大学法人、学校法人) 等

箇所数 単価 期間

32拠点 (継続16 + 新規16)
900万円程度 / 拠点・年
原則3年 (3年目の評価に応じて延長可)

委託対象経費

カリキュラム開発に必要な経費 (海外研修旅費、謝金、借損料、国際会議経費等)

上記のほか、事業の評価・検証 (1件) 及びWWLコンソーシアム構築・自走に向けた調査研究 (7地域) を大学等に委託して実施